

## 2026 山の足跡5 山で建国記念の日を祝う

大行山 (2026/2/11)

L : T野、I崎、A原、H口

宝台樹から上州武尊山へ向かう山スキーが計画された。日程は建国記念の日。そんな日に日本武尊が祀られた上州武尊山に登るなんて神話つながりでおめでたい。

ところが低気圧と前線の通過で広い範囲での雨予報となり強風が心配されるため止む無く転進することとなる。転進先としてT野さんが提案してくれたのは武尊山の北東にある大行山。森林帯の山なので雨風の影響が少ないだろうという読みである。

今回も昭和基地をベースキャンプとして使わせていただいた。6時半に基地を発ちとんかつ街道（国道401号）に入ると思いのほか道が混んでいる。週中の祝日だけに関東近郊のスキーパーク客が近場に集中しているのだろうか。進むにつれ尾瀬丸沼スキー場方面、尾瀬岩鞍スキー場方面へと目に見えて車が減ってきた。

戸倉スキー場もなかなかの賑わいであった。ゲレンデ前を8:55出発。硫黄沢沿いの林道を歩いて行く。緩い傾斜の長い道のりである。途中で二人組、三人組、四人組と出会った。あやめ平の方へ向かうらしい。

橋を渡りさらに進むと出発から50分で富士見下山荘跡に着いた。ここで一本取るがザックの中からテルモスを出そうしたら、「？！」…車に忘れた。とんだ失策だ。幸い優しいパーティーメンバーから慈悲をいただけた。

ここでルートの確認をする。このまま林道を行くのではなく、直前にAねーさんが探してくれた1,428mピークの尾根を通って行くルートを取ろうという事になった。

すぐ先から沢の対岸へと取り付くのだが、実際目にするとかなり傾斜が急である。  
「これはちょっと、…ひよる事にするかな。」

ひよる事にするとはこのまま林道を行こうという事である。

「ひよろう、ひよろう、ひよどり、ピーツ」とこれはAねーさん。

そういうわけで林道を進む事になる。



この先、林道は折り返しながら高度を上げる。このまま進むのに退屈してきた頃、先行パーティーに追い付かんと前を行くI崎さんを尻目に

「ちょっと遊んで来ます」と言ってT野さんがショートカットしに斜面に取り付いた。上がれそうな斜面だったので僕もそれに続いた。

「思いのほか少し雪が重いね、ちょっとモナカっぽい。」

斜面を歩く事で雪面の状況がわかるというものだ。

その後も迂回の部分を何回かショートカットし林道を離れ田代湿原の手前に出た。ここから大行山に向かって上って行く。

杉の植林帯を抜けるとダケカンバが多くなり傾斜がきつくなってきた。標高1,600m付近は特に等高線が密になっている。先頭のI崎さんが厳しい角度のキックターンを繰り返す。ターンをした後に太い枝が突き出ていたりここが核心部だった。

傾斜が緩くなった所で一本入れ、大行山と1,752mのピークとの間のコルに向けて進む。大行山に近付いた所でI崎さんがスマホを取り出し

「もう少し右の方だな」と位置確認をした。

大行山の山頂部は木々に覆われた平らな森となっており、できるだけ高い所を探して進む。山頂には『鈴蘭山の会』が取り付けた表札があるらしい。

そしてまさに 12 時になるタイミングで

「あっ、あった！」

苔の張り付いた大木に件の表札が取り付けられていた。しかしその時、

「無い、無い、無い！」と I 崎さんが声を上げた。胸のポケットをまさぐりながら

「…スマホが無い。」

さっき位置確認をした時にはあったので、そこからここまで間違ったに落としたに違いない。

「俺、探してくる」と歩いて来たトレースを引き返して行った。

なかなか戻って来ないので 3 人で I 崎さんの戻った方へ行ってみると

「あったよ」とホッとした顔で I 崎さんが立っていた。雪面にちょっとだけ端っこが出ていたそうだ。

「I 崎さんは何回もスマホを無くしてるけどその度に出てくるんだからからすごい」とみんなで笑った。

「で、どうする？ そのスマホに (YAMAP の) ログ残したいならもう一回山頂行く？」

「ははは…、俺のスマホだけ山頂のログ取れてないからな。」

山頂へ戻り今度はみんな笑顔で記念撮影。



山頂から北面に向けて舵を切る。滑り出すと雪は軽い。狙い通り、この雪を味わいに来たのだ。

「フー、フー、フー…」と T 野さんが奇声を上げながら軽やかに滑って行くのを追う。

200m 下った所で滑り終え、再びシールを取り付けた。ここから東に向かって 1,752m のピークと 1,786m のピークの間のコルに向かって上り返す。自然と I 崎さんが先頭を進んで行く。コルまで一気に上がると T 野さんが

「いやあ、さすがですね。衰え知らずですね」と I 崎さんをねぎらった。

「いやいやいや、落ちてるよ。今年セブンティー。」

「セブンティーインじゃないの、南沙織！」

「いやいやいや、わあっはっはっ…。」

コルからは田代湿原の右側を狙って滑って行く。やはりこちら側は雪が少し重たい。1,650m 辺りの傾斜がきつくトラバースするように下る。ヤマ場を過ぎるとそのまま林道に出た。折り返す所をショートカットしながら下って行くと、ちょうど 14 時に富士見下山荘跡に出た。

あとは林道を自動運転だが、CAT に踏まれて固まった雪面は足裏からゴリゴリと腿の側面に響いて来て時々スピードを殺してやらないと耐えられない。

14:10、戸倉スキー場まで戻って来た。YAMAP を止めると

「同じようなルートだったけど、前回来た時より 1 時間早いよ。メンバーの足が揃つたからね」と T 野さんが言っていた。

天気は山中で雪が少しけた程度で下山してからは陽が射し視界も良くなってきた。国道 401 号線を走る途中で上州武尊山も姿を見せた。うむうむ、これで無事、建国記念の日を祝えたのではないだろうか。

(H 口 記)